



PORSCHE

20. June. 2016

Vol.70/16

ポルシェ、ドラマチックな展開で18回目の総合優勝を果たす

ル・マン 24 時間レース、LMP1 クラス

ポルシェ AG (本社 : ドイツ、シュトゥットガルト 社長 : Dr.オリバー・ブルーメ) の 919 ハイブリッドは、ル・マン 24 時間レースにおいて真夜中からトヨタと優勝を賭けた激しい一騎打ちを展開しましたが、誰も予想しなかったエンディングを迎えることになりました。レースもいよいよ最終ラップ目前になり、誰もがトヨタの勝利を確信していましたが、そのトヨタ TS050 ハイブリッドにトラブルが発生しコース上でストップしました。そして 263,000 人の大観衆の前で最初にチェッカーフラッグを受けたのは、ロマン・デュマ (フランス) / ニール・ジャニ (スイス) / マルク・リーブ (ドイツ) 組のカーナンバー2 のポルシェ 919 ハイブリッドでした。このトリオは、2014 年にブラジルで 919 ハイブリッドを初優勝に導いたメンバーです。

世界で最も過酷な自動車レースであるル・マンにおいてポルシェが 18 回目の総合優勝を果たしました。最多優勝記録保持者であり、タイトルディフェンダーでもあるポルシェ本社には、2 年連続で勝利の証であるトロフィーが飾られることとなりました。2015 年には、アール・バンパー (ニュージーランド) / ニコ・ヒュルケンベルグ (ドイツ) / ニック・タンディ (イギリス) 組がドライブするポルシェ 919 ハイブリッドが優勝を果たしています。ポルシェはル・マンにおいて 1970 年 6 月 14 日にハンス・ヘルマン / リチャード・アトウッド組が 917 KH クーペで初優勝しています。

現世界耐久選手権王者であるティモ・ベルンハルト (ドイツ) / ブレンドン・ハートレー (ニュージーランド) / マーク・ウェバー (オーストラリア) 組がドライブしたカーナンバー1 のもう 1 台のポルシェ 919 ハイブリッドは、夜間に長いピットストップを行いました。その後の巻き返しによって総合 13 位でフィニッシュしました。これは、LMP1 クラスでは 5 位の結果でした。今回のル・マンでは、ポルシェは FIA 世界耐久選手権 (WEC) のマニファクチュアラー部門で合計 71 ポイントを獲得しました。ル・マン 24 時間レースでは、6 時間で競われる他の 8 戦の倍のポイントが与えられます。この結果、ポルシェは 127 ポイントでアウディ (95 ポイント) とトヨタ (79 ポイント) をリードしています。また、ドライバー部門では、デュマ / ジャニ / リーブが合計 94 ポイントで、2 位に 39 ポイント差をつけています。

日曜昼以降のポルシェのレース展開 :

カーナンバー2 のポルシェ 919 ハイブリッドではマルク・リーブが 4 連続スティントで強さを発揮し、時折レースをリードしました。日曜日の 11 時 50 分、331 週の終了後ニール・ジャニにクルマを渡します。ジャニは 345 周、359 周および 373 周を終了した時点で給油を行いました。381 周を終えて、彼はスローパンクのためピットインしなければなりません。レース終盤では最高でも 2 位フィニッシュという場面が何度もありました。しかし、最終ラップに入る前に、トップのトヨタがコース上で停止し、919 ハイブリッドが優勝しました。

一方、カーナンバー1 の 919 ハイブリッドは、序盤レースをリードしていましたが、23 時 13

分にポンプの故障および損傷により 39 周遅れとなりました。285 周を周回した 11 時 20 分、車両はマーク・ウェバーに託されました。ウェバーは、298 周および 311 周で給油を行いました。324 周を終えて、ウェバーはティモ・ベルンハルトと交代し、ベルンハルトは 337 周で少量の給油のために短時間の最終ピットストップを行った後、346 周、総合 13 位でレースを完走しました。

#### レース後のコメント

フリッツ・エンツィンガー(LMP1 担当副社長)：「まず、今回のレースでトヨタが見せた感動的なパフォーマンスに対して敬意を払いたいと思います。彼らとは素晴らしい戦いができました。フィニッシュ直前まで、私達は 2 位になるだろうと思っていましたが、突然にル・マン 2 連勝を獲得することになりました。ヴァイザッハのすばらしいチーム、ココル・マンのチーム、そしてポルシェの従業員全員およびファンの皆様のサポートに感謝しています」。

アンドレア・ザイドル (チーム監督)：「まず、ケルンの仲間であり友人であるトヨタの無念をお察しします。このような偉大なレースでの優勝を最終ラップで逃すことは、どんなに手強いライバルにも起こって欲しくないことです。しかし、モータースポーツでは最後まで何が起きるかわかりません。これこそ私達がこのスポーツを愛して止まない理由でもあります。激しい戦いの末に得た勝利です。私達は、トヨタにプレッシャーをかけ続け、レース全体を通じて全力を出し切りました。また、ドライバー達もよく頑張りました。トップの入れ替わりが激しいレースでもありました。919 ハイブリッドの開発と準備を開始して以来、私達は常に強力なパフォーマンスを発揮してきました。これは、レースチームだけではなく、ヴァイザッハの同僚達にも言えることです。カーナンバー2 のクルー達の喜びも、カーナンバー1 のメンバーの悔しさも、私にはどちらもよくわかります。トラブルと長い修理がなければ、カーナンバー1 も優勝争いに加わっていたでしょう。ル・マンでの勝利はシーズンのハイライトであり、私達がわずか 3 年目にして 2 連勝を達成できたのは信じ難いことです。今、私達は希望に満ちています。ここで、沢山のポイントを稼ぐことができたので、2 つのタイトル防衛を目指します」。

#### ポルシェ 919 ハイブリッド (カーナンバー1) のドライバーのコメント

ティモ・ベルンハルト (35 歳、ドイツ)：

(参戦数 9 戦：2010 年総合優勝、2015 年総合 2 位、2002 年 GT クラス優勝)

「カーナンバー2 とポルシェ チームに祝辞を贈ります。彼らにはその十分な資格がありました。24 時間にわたって勝利のために戦い、最後は接戦でした。トヨタチームの皆さんは残念でした。あのような形での敗退は残酷です。私達も不運で、マーク、ブレンドン、そしてクルー達も悔しい思いをしています。クルーは、粘り強く 919 ハイブリッドの修理に取り組み、走れる状態にしてくれました。今年は不運に見舞われましたが、乗り越えるしかありません。クルマは本当に速く、トップグループのスピードにも簡単についていくことができました。少なくともポルシェのためにマニファクチュアラー部門のポイントを稼ぐことができたのは幸いでした。来年、また私達はここに戻ってきます。私は決して諦めず、ポルシェでル・マン優勝を目指します」。

ブレンドン・ハートレー (26 歳、ニュージーランド)：

(参戦数 4 戦：2015 年総合 2 位)

「それぞれの最終スティントでは、ポイントを獲得するために各ドライバーが走行する時間を確保することが重要でした。私達のクルマのフィーリングはすごくよかったです。前半のトラブルが悔やまれます。しかし、チームの全員が闘志を燃やし、カーナンバー2 の幸運を祈り

ました」。

マーク・ウェバー（39歳、オーストラリア）：

（参戦数4戦：2015年総合2位）

「私はチームとあそこまでの頑張りを見せたメカニック達を強く誇りに思います。またポルシェでル・マンに参戦できたのは名誉あることです。今日はウォーターポンプのトラブルで運がありませんでした。これは重大なトラブルで、大きくタイムをロスしました。しかし、ティモとブレンドン素晴らしいドライビングをしてくれました。最後は、私達はカーナンバー2のために祈り、そしてもちろん私はチームメイト達とポルシェの勝利を喜んでいますが、今日トヨタに起こったことは受け入れ難く、残念なことです」。

ポルシェ 919 ハイブリッド（カーナンバー2）のドライバーのコメント

ロマン・デュマ（35歳、フランス）：

（参戦数15戦：2010年総合優勝、2007年総合3位、2015年総合5位、2013年GTEクラス優勝）

「トヨタは残念でした。素晴らしいレースでした。しかし、ル・マンで勝てるチャンスが与えられれば、もちろん断ることはありません。今すぐには、何が起こったかを消化することはできません。今シーズンは、レギュレーション変更のため、ラップタイムはわずかに遅くなりました」。

ニール・ジャニ（32歳、スイス）：

（参戦数7戦：2015年予選周回タイム新記録、決勝総合5位）

「トヨタのドライバー達の気持ちを考えると悲しくなります。レーシングドライバーであれば誰でも、それがどのようなものか痛いほどわかると思います。ル・マン24時間での優勝をまだ言葉で表現することはできません。夢を見ているような感じです。それでも、私達はほとんどミスをする事なくクルマを限界までプッシュし、非常によいレースをしたと思います。この勝利は、本当に特別なものです」。

マルク・リーブ（35歳、ドイツ）：

（参戦数10戦：2015年総合5位、2013年GTE/2010年GT2/2005年GTクラス優勝）

「トラフィックと減速ゾーンで、まったく簡単なレースではありませんでした。私が行った4連続スティントは、限界ギリギリでした。最初の3回のスティントでさえ、トラフィックでのオーバーテイクや、リスクを冒したりと、非常に難しいものでした。そして、最後のスティントでは燃料を節約しなければならず、特に性能が低下し始めたフロントタイヤも労らなければなりません。私は全力を尽くしました。今日起こったすべての出来事を消化するのは、これからです」。

＜本件に関する読者からのお問い合わせ先＞  
ポルシェ カスタマーケアセンター 0120-846-911  
ポルシェ ホームページ <http://www.porsche.com/japan/>